

国登録有形文化財（建造物）

「旧上妻家住宅主屋， 旧上妻家住宅門」

（きゅうこうづまけじゅうたくしゅおく， きゅうこうづまけじゅうたくもん）

- 1 所在地 西之表市西之表
- 2 建築年代 江戸末期（主屋は昭和中期に改修）
- 3 特徴等 主屋は南北二列に室を並べ、南列を接客用座敷、北列を居室とする。北列東室はもと土間とみられる。内部造作も床構えを板壁とするなど、地域の特徴をよく表している。門は敷地の南辺に開く腕木門である。
主柱の前後に前後に控柱を出す。軒は、一軒疎垂木（ひとのきそだるき）で、棧瓦を葺く。冠木（かぶき）中央に左右笈型付（おいがたつき）の束を立てる。全体に簡素ながらも、腕肘木（さねひじき）などに繰型を施すなど、細部に装飾を持つ。敷地のソテツなどと相まって、南国の武家屋敷の構えを示す貴重な文化財である。

主
屋



門

